

R10年度 ありたい姿

DX・働き方改革に取り組み、
これらの姿を実現する



行政



産業



暮らし



人材



働き方

行政サービスデジタル完結

手続き・決済効率化／オープンデータ推進／
サービス連携充実

不慣れな方の不安払拭

デジタルデバイド対策

産業競争力維持強化

企業個々のDX／先進的技術／新規ビジネス

建設・農林魅力向上

建設現場、農林水産業の生産性向上、働き方改革

持続的な観光地づくり

地域の魅力分析／ターゲット別プロモーション

質の高い医療・保健・福祉

適切な受診機会／医療サービスネットワーク／
介護・福祉ロボット・ICT／負担軽減

成長に応じた子育て環境

情報・サービスが子育て世代に届く仕組み

インフラ安全性向上

公共インフラの維持管理等高度化

円滑な避難・災害救助

あらゆる場面で対応迅速化

犯罪・事故減少

防犯／交通事故防止／交通安全／消費者教育

出かけたくなる地域交通

新サービスによる移動・交流機会／
実情に応じた交通

地域社会活性化

地域課題解決／文化芸術機会の充実／伝統文化継承

令和7年度 DX・働き方改革 推進本部

令和7年7月18日(金)
14:30-15:00

防災危機管理センター3階AB

次第



1. 当本部会議の概要

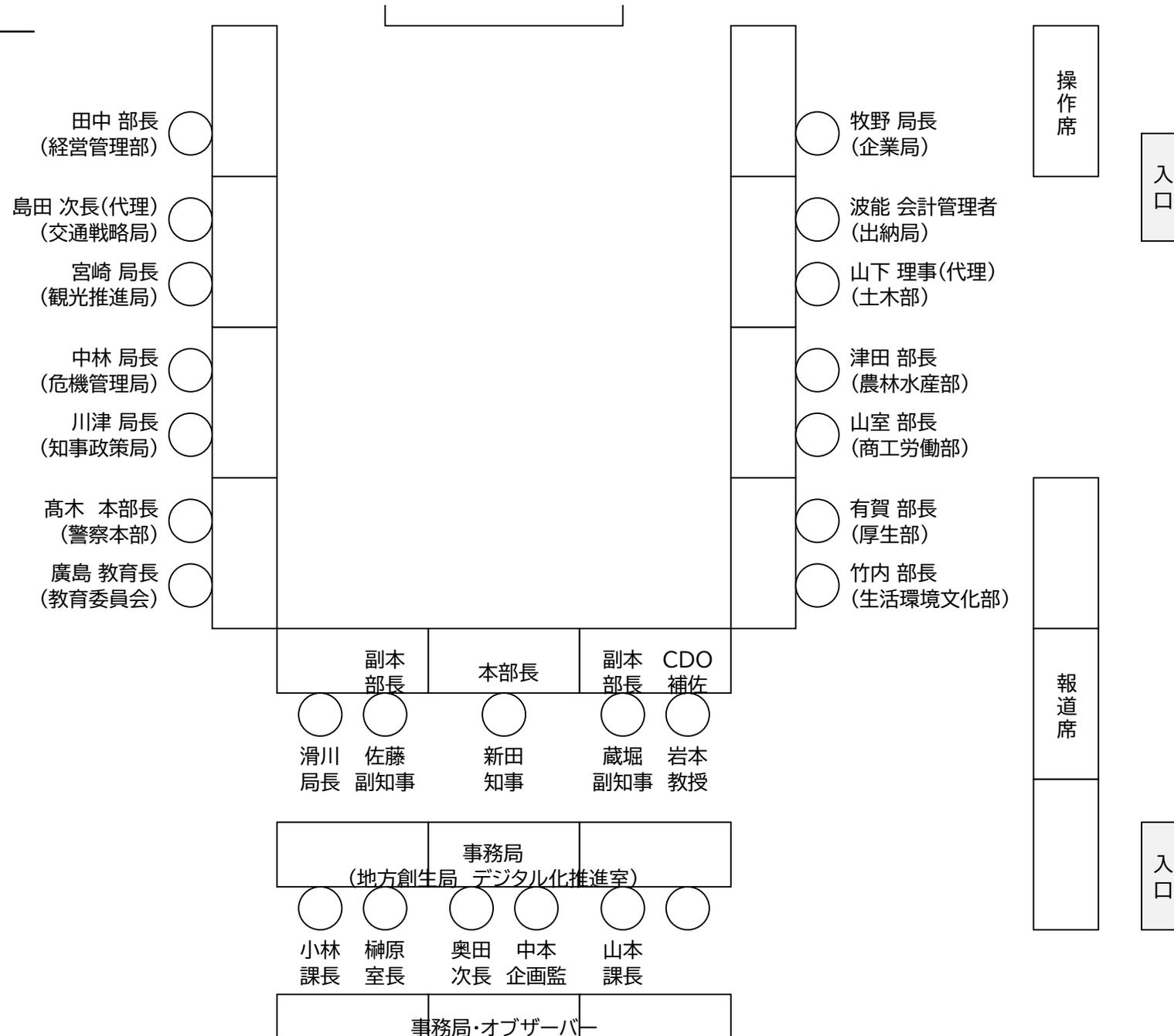
2. DX施策好事例

本部員発表・意見交換

3. まとめ

1. 当本部会議の概要

○出席者



1. 当本部会議の概要

○出席者

■本部長・副本部長

本部長	知事	新田 八朗	
副本部長	副知事・CIO・CDO DX・働き方改革推進委員長	佐藤 一絵	
副本部長	副知事	蔵堀 祐一	

■外部人材

DX・働き方改革推進補佐官	freee株式会社 専務執行役員 CBIO	川西 康之	オンライン
DX・働き方改革推進副補佐官	つづく株式会社 代表取締役	井領 明広	オンライン
デジタル変革担当 CDO補佐	富山県立大学 情報工学部 情報システム工学科 教授	岩本 健嗣	

■本部員

本部員	教育長	廣島 伸一	
	警察本部長	高木 正人	
	知事政策局長	川津 鉄三	
	危機管理局长	中林 昇	
	地方創生局長	滑川 哲宏	
	観光推進局長	宮崎 一郎	
	交通政策局長	田中 達也	島田 次長
	経営管理部長	田中 雅敏	
	生活環境文化部長	竹内 延和	
	厚生部長	有賀 玲子	
	商工労働部長	山室 芳剛	
	農林水産部長	津田 康志	
	土木部長	金谷 英明	山下 理事
	会計管理者	波能 映子	
	企業局長	牧野 裕亮	

1. 当本部会議の概要

○目的

1. 当本部会議の概要

2. 好事例の共有

本部員

- 本会議沿革の再確認
- 今回の本部会議の位置づけの把握

- 積極的な意見交換
- 自部局への応用検討

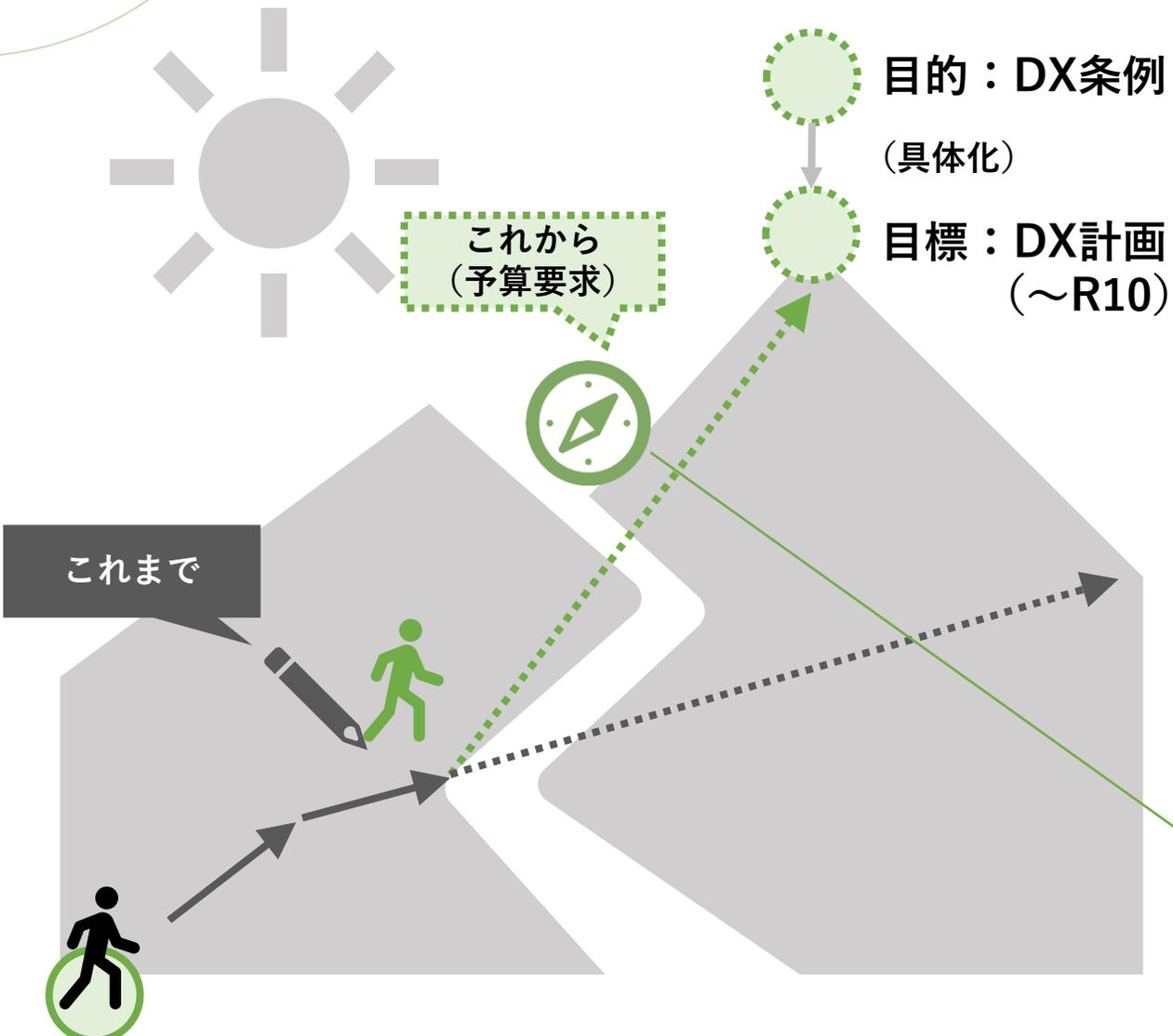
外部人材

(同上)

- 好事例の評価
- 全国的な事例のご紹介

1. 当本部会議の概要

○DX施策推進の方向性



条例基本理念

- デジタルを適正かつ効果的に活用することにより、
- 1 人口減少、少子高齢化の進展その他本県が直面する様々な課題を克服する
 - 2 産業競争力の強化・活力ある地域社会を実現する
 - 3 全ての県民がゆとりと豊かさを実感できる生活を実現する

概ね5年後のありたい姿 一覧

1 行政サービスの利便性や質の向上 <ul style="list-style-type: none">① 行政手続や行政サービスのデジタル完結などにより、県民や事業者の利便性が向上している。② デジタルに不慣れな方の不安やためらいが払拭されている。	3 活力ある地域社会の実現 <ul style="list-style-type: none">① 住み慣れた地域で安心して質の高い医療・保健・福祉サービスを受ける機会が維持されている。② 家庭や地域における子どもの成長段階に応じた子育て環境づくりが進んでいる。③ 公共インフラの維持管理などの効率化が進み、安全性が維持・向上している。④ 災害時の避難や行政の災害救助が円滑に行われ、県民の安心・安全が確保されている。⑤ 犯罪や交通事故が減少し、県民がより安心な暮らしを実感している。⑥ 出かけたくなる、乗りたい地域交通ネットワークが実現し、県民の利便性が向上している。⑦ 地域社会の機能が維持・活性化され、県民の安心して活き活きた暮らしが維持されている。	4 デジタル社会を支える人材の育成 <ul style="list-style-type: none">① 県民一人ひとりのDXに関するリテラシーが向上し、多くの人にとってデジタルの利用が当たり前となっている。② 教員や児童・生徒のデジタルを利用する力が向上し、ICTが効果的に活用されている。③ デジタルやデータサイエンスに関する知識やスキルを持ち、地域や産業のDXを実践できる人材が育成されている。④ 県・市町村の全職員がデジタルスキルのレベルアップを図りながら、DXを積極的に推進できる組織になっている。
2 産業競争力の強化 <ul style="list-style-type: none">① 商品・サービスの高付加価値化や生産性の向上が図られ、県内産業の競争力が維持・強化されている。② 建設業や農林水産業の省力化や生産性の向上が図られ、魅力の向上や労働環境の改善により、必要な担い手が確保されている。③ 観光産業において、戦略的な観光サービスが提供され、持続的な観光地づくりが進んでいる。		5 働き方改革の推進 <ul style="list-style-type: none">① 柔軟な働き方や業務の効率化・生産性向上により、働きがいのある職場、ゆとりある暮らしが実現している。

進捗：参考資料のとおり

- ✓ 好事例の共有ではずみ
- ✓ デ推による伴走支援

1. 当本部会議の概要

○DX施策推進の方向性



予算要求にかかる伴走窓口を開設！（7～12月ごろ想定）

**R⑧DX予算要求
ワンストップ伴走窓口**

予算要求に関してふわっとした段階でお話をお伺い



一緒に検討！
&
デジタル化推進室
各サービスへおつながぎ！

デジタル戦略課	CDO補佐 アドバイス	DX計画ありたい姿 ・これまでの取組み	Digi-PoC TOYAMA 実証実験	新地創交付金 デジタル実装型
行政デジタル化・生産性向上課	富山データ 連携基盤	TOYAMA ONE アプリ(地域通貨含)	生成AI	AIチャットボット
情報システム課	予算前審査	行政手続き オンライン化	情報セキュリティ	DX推進リーダー 研修

1. 当本部会議の概要

○サービス例:Digi-PoC TOYAMA 実証実験



R7年度実証実験

「とやまデジタル県民
コミュニティ」の創出・
活性化

(株)NTT データ
×観光戦略課

河川モニタリングの
最適化と情報発信

ハイドロ総合技術研究所(株)
×河川課

介護サービスの
担い手確保と
負担軽減

①(株)タイミー
×射水市
②ダイハツ工業(株)
×射水市

中山間地域における
農地の現地調査の
効率化

(株)ネステイ
×農村振興課

持続可能な農業
の確立

(株)サグリ
×農業経営課

※R6年度実証実験

数時間単位から就農できる
マッチングサイト構築

(株)Matchbox Technologies
×農業経営課

避難所チェックインと
備蓄品管理の連携による
避難所運営の効率化

射水ケーブルネットワーク(株)
×射水市

自律分散型組織(DAO)の
要素を取り入れたオンライン
コミュニティにより富山の
寿司をブランディング

Web3 Times(合)
×ブランディング推進課

関係人口を一元管理する
プラットフォーム構築

(株)Asian Bridge
×戦略企画課

2. 好事例の共有 本部員発表・意見交換

○各部局の好事例一覧

① 観光推進局

データ主導型の観光マーケティング

② 生活環境文化部

県立大DXサポーターと連携した

富山マラソン運営業務効率化

③ 警察本部

富山県警察の安全安心アプリ

どの時期に?
どんな人が?
どんな目的?

分析

データに基づく政策立案評価 (EBPM)

データ主導型観光マーケティング戦略

観光推進局
データ主導型の観光マーケティング

緊急参集 投稿 ファイル Notes

富山県職員
安否報告フォーム

https://www.pref.to

危機管理局
災害発生時における
デジタルツールの活用

「ファイル」

「照会一覧表」

土木部
土木部照会等ルール
の作成

- ・アドバイザーによる伴走支援
- ・情報発信をワンストップで支援する広報相談窓口を設置 (R7.6.19~)
- ・ターゲットを踏まえた効果的な発信媒体を紹介・活用 (県政テレビ番組、県広報とやま、県からのお知らせ、県公式X、LINEなど)

知事政策局
広報・デジタルマーケティングの推進

とやま介護テクノロジー普及・推進センター

厚生部
介護テクノロジーの
導入推進

生活環境文化部
県立大DXサポーターと連携した
富山マラソン運営業務
効率化

交通政策局
MaaSアプリの
利用拡大

新しい
移動手段

企業局
DXを活用した機能
維持管理システム構築

地方創生局
VRを活用した
富山移住魅力発信

商工労働部
企業誘致に関する企業
情報のデータベース化

警察本部
富山県警察の
安全安心アプリ

農林水産部
スマート林業による
生産性向上

教育委員会
デジタル採点ソフト
効果検証

▲複数選択一括採点

▲「合計得点」集計の自動化

▲設問の正答率(分析)

経営管理部
庁用車等配車申込・
運転日報デジタル化

出納局 収受登録
請求書AI-OCRの導入
により電子請求を支援

AI-OCR, RPAにより
自動化

請求書の記載内容を
文字認識して処理

RPA
Robotics Process Automate

PDF
請求書

CSV
件名
相手先
金額

データ主導型の観光マーケティング

観光推進局／観光振興室（とやま観光推進機構）

①TOYTOSの運用：蓄積する観光関連データを可視化し、オープンデータとして提供する（トイトス）
 観光統計データサイト「TOYTOS（トイトス）」を開設・運用。
 ※「観光ナビアクセスデータ」「旅行者データ」「観光レポート」を公開

②おでかけウォッチャーの導入：(株)ブログウォッチャーが提供するデジタル観光統計サービス。スマホアプリに紐づく位置情報を活用し、県内観光スポットにおける国内及び訪日観光客の人流データの分析が可能。



2 産業競争力の強化
 ③持続的な観光地づくり
 地域の魅力分析／ターゲット別プロモーション

予算額 16,190千円（R7）
 （新しい地方経済・生活環境創生交付金）

目的
 データ主導型観光マーケティング戦略を推進し、県内に普及することで、来訪者満足度や幸福度向上、地域経済の持続的成長を図るとともに、データドリブン人材育成を支援

- 事業概要
- ①データ収集基盤の確立
 - ・ウェブアンケートの設問改善
 - ②データ解析・分析基盤の確立
 - ・TOYTOSインターフェイスのユーザビリティ向上
 - ③分析結果の共有体制の確立
 - ・機構によるデータの解析・分析能力の向上
 - ・自治体等に対するデータ分析結果の共有
 - ④データ主導型観光マーケティング人材の育成
 - ・人材育成を目的とした講座の開催
 - ⑤データ利活用推進体制の整備
 - ・市町村に人流分析ツール「おでかけウォッチャー」のアカウントを付与し、データ利活用を促進

成果
 ・R6の分析結果を踏まえ、「女性視座に基づくマーケティング戦略個別サポート型支援事業(R7)」を実施(機構)

- 進捗等
- ・TOYTOSインターフェイスの改善及びユーザビリティ向上を検討中
 - ・おでかけウォッチャー研修の開催（R7.7）

※データに基づいて意思決定や課題解決を行うことができる能力を持った人材

県立大DXサポーターと連携した富山マラソン運営業務効率化

生活環境文化部／スポーツ振興課

職員協力業務（職員振り分け・データベース一元化・名簿更新）を自動化することで、膨大な業務時間を半減し、大会参加者の満足度向上や機運醸成業務への取組み時間を確保する。

職員振り分けの自動化

【希望エリアへの振り分け基準】

★優先順位★

- i 居住地（出発地から近いかどうか）
- ii 居住地から業務エリアまでの移動手段
- iii 富山マラソン運営業務の経験の有無

評価点	評価入力	0点～50点	MAX
居住地	使用可	0	50
	使用不可 (公共交通のみ)	15	30
	使用不可 (公共交通も利用 にない)	30	
経験点	初参加	0	
	1～2回	10	20
	3回以上	20	
計	マラソン経験数	★振り分けから除外	100

【希望業務への振り分け基準】

★優先順位★

- i 過去のポジション業務経験の有無
- ii 過去の富山マラソンスタッフ業務経験
- iii 職員の役職

評価点	評価入力	0点～50点	MAX
過去経験 (ポジション)	経験あり(重複)	40	40
	経験あり(区分)	20	
	経験なし	0	
過去経験 (回数)	初参加	0	
	1～2回	25	40
	3回以上	40	
役職点	マラソン経験数	20	
	定例、課長等	15	
	副課長、課長補佐	10	
	係長、主任	10	20
	主任級	5	
計	主事・技師級	0	100

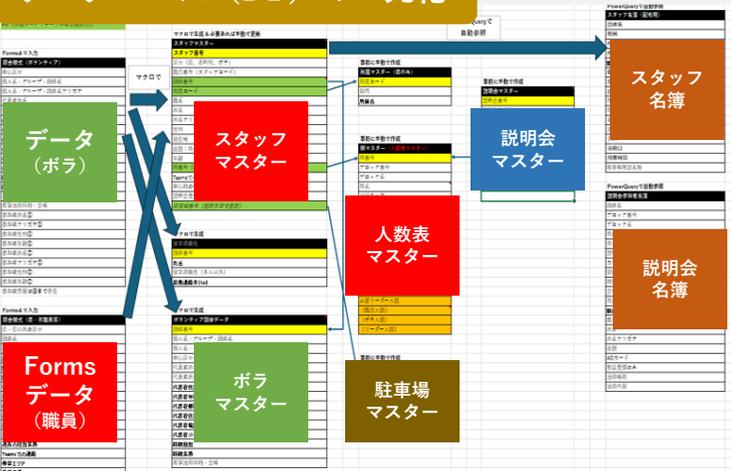
マクロによる 自動振り分け



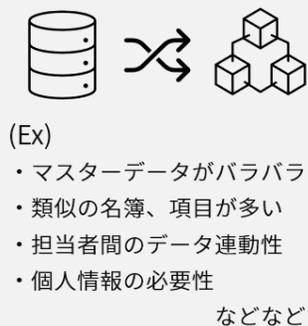
県庁職員（800名超）の 業務振り分けの自動化

- Formsを用いて各自必要情報を入力する（居住地、経験、希望業務等）
- 入力データを基に点数化、自動で活動エリア、業務割当

データベース（DB）の一元化



PowerQueryによる マスターデータ管理



担当が異なるデータ集約、 用途に合わせて出力

- 各業務担当者それぞれのマスター調整の連動化（駐車場、説明会、人数表等）
- 一元化したDBから、スタッフ名簿や業務毎の説明会名簿など、用途に応じて出力

5 働き方改革の推進

①働きがいのある職場・ゆとり
事業所等・学校・自治体における働き方改革

予算額 R6： 0千円（デ推既存事業予算活用）
R7：1,445千円（チャレンジコンテスト採択）

目的

一連の協力業務自動化に係る業務時間削減により、富山マラソン参加者の満足度向上等業務に注力する。

事業概要

- 富山マラソンのスタッフ協力業務の自動化。
R6年度枠組み構築後、R7年度実装に向け調整
- ・ 職員協力業務フローを可視化することにより、従来の業務のやり方の課題を整理（マスターデータがバラバラ、類似名簿が多い等）
 - ・ マクロによるスタッフ振り分けの自動化（居住地や希望業務等の情報を個別に入力してもらう）
 - ・ これまで担当業務毎にバラバラで扱っていたデータ（スタッフ人数表、説明会日時、駐車場情報等）を一つのDBに集約。
 - ・ 集約したDBから、各名簿（ポジションごと、会場毎のスタッフ名簿等）を簡単に出力

効果（2025大会での目標）

- ・ 作業時間の削減（200時間⇒100時間※予定）
- ・ 名簿毎の転記や更新が不要となり信頼性向上
- ・ マラソン係全体の業務を見直すきっかけに

進捗

R6年度枠組み構築、R7実装に向けた調整、実装
※R7チャレンジコンテスト採択事業として継続実施。
（スポーツ振興課や全庁的に業務効率化を展開）

富山県警察の安全安心アプリ

警察／警務課、生活安全企画課

住んでいる街の不審者や特殊詐欺等の情報を地図付きでタイムリーに配信。
防犯ブザー、現在地送信等の安全安心に関する機能も満載。



富山県民におくる、安全と安心

とやまポリス



3 活力ある地域社会の実現

⑤犯罪・事故減少

防犯／交通事故防止／交通安全／消費者教育

予算額 13,000千円

(デジタル田園都市国家構想交付金実装タイプ 1/2補助)

目的

防犯や交通安全などに役立つ機能を一つに集約したアプリ「とやまポリス」の導入により、被害の未然防止、交通事故防止に繋げ、県民の安全で安心な暮らしを実現する。

事業概要

- ・ 犯罪や交通事故の発生状況等、県民に必要な情報をタイムリーかつ分かりやすく提供するスマートフォン用アプリの開発・運用。
- ・ 富山県警独自機能を複数搭載、民間データも活用。(特殊詐欺対策、山岳遭難情報、通学路危険箇所、急ブレーキ発生率上位箇所、ゲーム等)
- ・ 一部のコンテンツ開発に、知事部局導入の生成AIを活用。

効果

運用開始 (R7.3.4) から約4か月で20,000ダウンロード突破
(今後、満足度や自主防犯意識の向上に関するアンケートを取り効果を測定予定。)

進捗等

- ・ R6.6~開発、R7.3~運用開始
- ・ 普及に向けた継続的な広報活動を実施

発生マップ

(犯罪、不審者、交通、特殊詐欺、山岳遭難等)

防犯ブザー

痴漢撃退

パトロール

支援

クマ対策

パトロール促進・
閲覧促進のための
ゲーム

お知らせ

(プッシュ通知)

現在地送信

特殊詐欺
対策

手配情報

各種リンク

目的(本部員)

1. 当本部会議の概要

□ 本会議沿革の再確認

□ 今回の本部会議の位置づけの把握

2. 好事例の共有

□ 積極的な意見交換

□ 自部局への応用検討

1. 当本部会議の概要

✓ R10年度のありたい姿に向けて事業を実施するにあたり、好事例を共有してはずみをつけていただきたい

✓ R⑧DX予算要求ワンストップ
伴走窓口を実施
ぜひご活用を



2. 好事例の共有

本部員発表・意見交換



まとめ

